



祝祭日には



を掲げましょう

いまこそ集落創生

第5回 魚清水地区



1_糠塚稲荷に向かう石段。木々に覆われた先の鳥居が幻想的 2_「昔はご神体を持って勤進をした」山の神社で岸副区長は懐かしそうに話した 3_地区の入口、県道沿いにある喜利同志大権現 4_糠塚稲荷大明神には3体のお稲荷様

町中心部から東へ約2km。神室山から流れくる金山川の右岸に位置する魚清水地区。その名の通り、かつて地区は湧き水で溢れ、多くの天然魚が生息していたことも地区名の由来とされています。「今では湧き水はなく、あまり魚もいなくなりました。でも、地区名には誇りを持っている。金山一きれいな名前だと思う」と岸健一副区長は話し、口元をゆるめます。

現在、17世帯64名が暮らす魚清水。地区は金山川を隔てて他と独立しています。その地域性が絆の深さや団結力を強めた、と住民の皆さんは口を揃えます。人口減少が進む中でも、地区の祭りは絶やさずに継承しています。ひとつは6月の三社祭。地区に祀っている「糠塚稲荷大明神」「喜利同志大権現」「魚清水山の神社」の三社に感謝を捧げ、祭典を執り行います。9月の秋まつりは、風まつりが起源。各戸から一品料理を持ち寄り、住民の交流を図っています。

地区を語るうえで欠かせないのが、地区に入りほだなくして小高くそびえる「糠塚」の存在です。山頂の糠塚稲荷は今から150年以上前に、京都の伏見稲荷から大明神を勧請したもの。その後、弁護士であり参議院議員であった小林亦治氏の手によって整備。豊作を願い、今なお大切に祀られています。

まさに、魚清水のシンボルであり、郷土愛の標である糠塚。歌碑や記念碑なども並び、ふもとにある地区公民館には住民が集まります。その精神を引き継ぐように清水会では、補助金を活用し、10年かけて地区内の水路を整備。これからも、糠塚とその意思を守ること、魚清水地区の未来は続いていきます。

金山町の人口は、5,588人 (6月末現在)

男性 2,703人 (-1)
女性 2,885人 (-1)
世帯数 1,768世帯

▼6月の異動
出生 2人
死亡 7人
転入 4人
転出 1人

編集 幸記

▼金山中で進めている創郷学習「金山学」。学習の一環として、生徒がふるさとに関心を持つ手助けになるようにと、役場職員が生徒の疑問にお答えする機会をいただきました。PRの仕方に関する質問には私も広報の立場で回答。その他にも、町の産業や福祉、観光に関することなどたくさんの方の質問が出されました。

▼町を良くするための企画を提案することが学習のゴールとのこと。生徒たちが金山を想い考案した企画を、広報かねやまで紹介できることを楽しみにしています。(つむぎ)